月に少数発生し *T. scutellaris* より少し遅れ、1月に急に増加し頂点に達し、3月迄割合に多く、その後急に減少し、5月に入ると全く認められない。*T. pallida* は前者と同様10月から少数発生し、2月に頂点に達し、5月に全く認められなくなる。*T. kitasatoi* だけは1年中発生しているが、特に4月と10月に山が見られた。尚元町と岡田を比較すると、各種類共に大した相違が認められないが、*T. pallida* の数が岡田に比べて元町に多い点が異っていた。以上を総括して他地域と比較考察すると、現在迄知られている季節的消長に関する研究の中で、千葉県長尾地区の成績が大島と非常に良く似ている。即ち各種類の曲線及び *T. fuji* の頂点が1月にあり、又 *T. kitasatoi* 以外は夏期に採集されない点等があげられる。同じ伊豆七島に属する八丈島の *T. scutellaris* に就いて比較すると、八丈島に於る本種の出現は11月初旬に認められ、12月に頂点に達し、従つて約1ヶ月のずれが認められることになる。本報告は地方性リケツチア症研究班（委員長：田宮猛雄）の全国的調査の1部として実施されたものであり、この詳細は改めて印刷発表の予定である。（東京医歯大・医動物）

隠岐島における恙虫：西田弘 Nishida, H.: Trombiculid mites in Oki-island (Shimane Prefecture)

隠岐島における恙虫の調査は、昭和31年9月に地方病性リケツチア調査班によつて行われたものがあるのみで、未だ充分調べられていない。私は昭和31年11月、京都大学の徳田氏らによつて行われた隠岐島の野鼠の調査に協力して渡島し、野鼠寄生の恙虫を調査する機会を得た。調査が行われた所は周吉郡西郷町の4カ所と知夫郡浦郷町の1カ所、計5カ所であつて、これらの地で *Apodemus speciosus navigator* 19, *A. geisha celatus* 7, *Antelomys smithii okiensis* 7, *Urotrichus talpoides minutus* 21, 計54頭の野鼠を捕獲した。これらの野鼠について恙虫を調べた結果、*Trombicula pallida* 131, *T. japonica* 33, *Gahrlepieia saduski* 57, *T. fuji* 489, *Euschöngastia ikaoensis* 3, *T. murotoensis* 46, *T. tanakaryoi* 6と3, *T. fukuoka*? 1, 計1393疋の恙虫幼虫を得た。この隠岐の恙虫相は山陰本土の同一季節における野鼠の各対応種のそれと比較して、大差は認められない。然し、*T. fukuoka*? を認めたことと、*T. pallida* が西郷町の大満寺及び浦郷において相当多数採集せられた事は興味ある事である。*T. pallida* は周知の様に広義の恙虫病の媒介者と推定せられているので、上記の2地方においては本病との疫学的関係において注意を要する。次

に隠岐島産の恙虫幼虫3種について形態上特異な点を記述すれば、*G. saduski* の背甲板後部の毛の数は全て2本であつた。*T. fukuoka*? としたものは西郷町の上東郷で捕えた *U. t. minutus* から得たもので、*T. fukuoka* に似ているけれども標準測定値の一部及び胴背毛数（2—8—7—2—7—4—2, 計32）において、原著の記載と一致しない点があるので、このものが独立種であるかどうかについては更に検討したい。次に *pallida* の胴背毛についてその変異を検討した結果、全体としては DS-II: 12本を最頻型とする本州の *pallida* の基本型と同一集団をなすものと考えられるが、一部には 2—10—10, 2—10—11, 2—11—10, 2—11—11等の八丈島の *T. pallida burnsi* に近い胴背毛式を示すものがあり、全体としても米子において採集された *pallida* のそれと比べて胴背毛数の少い個体が遙かに多い事、又 PWも15疋の平均は77.9 μ (72—82 μ) で、米子のものよりも相当大きく、むしろ八丈の *burnsi* のそれに近い事を認めた。この様に隠岐島の *T. pallida* の中に、遠く離れた八丈の *burnsi* に近い様な個体の見られる事は、この種の変異性に関連して甚だ興味深い。（鳥取大・公衆衛生）

愛媛県下の恙虫 (I): 山口富雄・福山義彦 Yamaguchi, T. & Fukuyama, Y.: Studies on Tsutsugamushi, in Ehime Prefecture (I)

四国における恙虫の分布状況については、今日までにかなり明らかにされている。しかし、愛媛県だけは、その調査が不十分で、ほとんど不明の状態にある。われわれは、本県の恙虫相を調査し、その結果、四国全域の状況を明らかにする目的で、1956年12月から、愛媛県下全域について検索を行つた。今日まで、18カ所、延27回の調査で、アカネズミ79, スミスネズミ5, ドブネズミ5 およびヒミズモグラ8, 計97頭を捕獲し、3属13種、8,533疋の恙虫を捕集した。調査範囲は、一応県下全域にわたつており、本県の恙虫相は、大体これで明らかになつたものと考えられる。とれた恙虫の種類は、多いものから、キタサト、ガーリエピア、フジ、ミタムラ、コウチ、ムロト、クロシオ、ミヤジマ、ダイセン、カンサイ、イカオタマ、フトゲ、ミヤイリの順である。宿主別には、アカネズミには、カンサイ、およびミヤイリを除いた11種、スミスネズミには、キタサト、フジ、クロシオ、ムロト、コウチ、ミヤジマ、ダイセン、ガーリエピアの8種、ヒミズモグラには、キタサト、ムロト、ミタムラ、カンサイ、ミヤイリの5種で、とくに、ヒミズモグラに、極めて多数のミタムラの附着しているのが注目